

あるユダヤ人が学んだ
イザヤ53章の意味



トム・カンター著

Scantibodies Laboratory社
Scantibodies社 臨床検査室
代表取締役社長・CEO

イザヤ53章1～12節

1) 私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現われたのか。

2) 彼は主の前に若枝のように芽生え、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。

3) 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。

4) まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。

5) しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

6) 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。

(裏表紙内に続いています。)

あるユダヤ人が学んだ
イザヤ53章の意味



トム・カンター著

Scantibodies Laboratory社
Scantibodies社 臨床検査室
代表取締役社長・CEO

本書の聖書箇所・聖句は、新改訳聖書第2版（日本聖書刊行会・いのちのことば社）より引用しています。

著作権 © 2008 トム・カンター
出版 Scantibodies Laboratory社
Santee, CA, USA

あるユダヤ人が学んだ イザヤ53章の意味

私はユダヤ人の子どもとしてシナゴークで聖書を学びましたが、イザヤ53章の意味を理解していませんでした。しかし、ある日本の少年のエピソードが、この聖書箇所完璧かつとても美しい意味を理解するのにとても役に立ちました。

これからの話は、ノゾミという名の日本の少年の実話です。

初めて学校に行った日、ノゾミと彼のクラスメイトはとても緊張していました。また、担任の先生もとても緊張していました。突然、ノゾミが立ち上がって教室から出ていったかと思うと彼はバケツいっぱいの水を持って来て彼の隣に座っている女の子にそれを浴びせかけました。

先生はとても驚き、そして強く彼を叱りました！彼女は繰り返し、彼がなぜそんな愚かなことをしたのか尋ねましたが、ノゾミは一言も話しませんでした。

多くの月日が過ぎ、そのクラスの生徒達も学校を卒業することになりました。学校生活の間中、ノゾミは彼が学校生活初日にしたことのために、ずっと嘲笑されました。

先生は長い間ノゾミを見て、彼が本当は模範的な生徒であるということが分かりました。だからこそ、彼が学校生活初日になぜ、あのような馬鹿げたことをしたのか分かりませんでした。

「私はもう怒っていないわよ。でも、どうしてあのような馬鹿げたことをしたのか教えて。」教師がノゾミに訴えました。すると、ノゾミは彼女に全てを話しました。

「学校生活の初日、僕たちはみんなとても緊張していたんだ。」ノゾミは説明を続けました。「隣の机を見ると女の子が泣いているのに気がついたんだ。下を見ると涙で濡れていたんだ。僕は、彼女が恥ずかしくて自分をコントロール出来なくなっていると分かったんだ

僕に思いついたのは、彼女が泣いているということに誰も気付かないように、彼女に水をかけることだけだったんだ。」

ノゾミは、その少女をかばうために、おかしくて愚かなことをした全責任を負い、全ての非難を浴びました。

主イエス・キリストは私たちを造られました。私たちがみな自分勝手な道に足を向け、神に対して「さよなら」を言いました。私たちがみな神に背きました。そして、罪は我々に被害を与えました。イザヤ53章には、神ご自身

が、我々の罪の代価を支払い我々を救うために、その力と栄光を脇において、人間の姿（イエスキリストの姿で）で来たことについて書かれています。イエス・キリストだけが罪のない人生を送ったただ一人の人間だったので、彼だけが我々の身代わりとして、残酷な十字架での死によって、我々の罪の代金を払う資格がありました。

主イエス・キリストが我々のためにしたことは、イザヤ53章4～5節に記述されています。

「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」

十字架の上で、彼は我々の罪に対する罰をお受けになりました。彼ご自身には罪はありませんでしたが、彼は私たちの罪のために苦しみを受け、そして死なれました。

ちょうどノゾミが素早く考えをめぐらし、彼のクラスメイトを守る計画を行う準備を行ったように、父である神は、我々を我々の罪から救うための救済計画を準備しました。

ちょうどノゾミが計画し行ったことにより、彼自身が軽蔑と嘲笑の全てを引き受なくてははいけなかったように、父である神の計画では、我々が受けるべき軽蔑と嘲笑の全てを身代わりに受けるために、つらいことですが、息子であるイエス・キリストをあきらめなければいけませんでした。

ちょうどノゾミが少女をかばうために、悪者にならなければならなかった

ように、主イエス・キリストは、我々が支払うべき罪の代価を払い、我々をかばって罪に対する罰をお受けになりました。

聖書の第2コリント人への手紙5章21節には、主イエス・キリストがどのように我々の罪の代価を支払ったかまた、それにより我々が罪に対する罰から救われているということについて書かれています。「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。」

ちょうど、ノゾミが彼の同級生を保護するために、嘲笑されるという代価を支払ったように、主イエス・キリストは、我々を保護するために恥と嘲笑にさらされる代価を支払いました。

詩篇22章には、主イエス・キリストの十字架について、実際にキリスト

ご自身が私たちの罪のために十字架にかけられるおよそ1000年も前に正確に書かれています。

詩篇22篇6～7、16節

「しかし、私は虫けらです。人間ではありません。人のそしり、民のさげすみです。私を見る者はみな、私をあざけります。彼らは口をとがらせ、頭を振ります。・・・犬どもが私を取り巻き、悪者どもの群れが、私を取り巻き、私の手足を引き裂きました。」

ちょうどノゾミが彼の同級生を憐れみ、彼女を守るために代わりに苦しむことになったように、神は、我々の罪の代価である地獄から我々を救い出すために、彼の息子を身代わりとして死なせるために送ってくださいましたがその動機は愛であったことがヨハネ3章16～17節に書かれています。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」

ちょうど、その少女が自分からは何もせず、ただ座っているだけで、ノゾミからの保護を受けたように、我々は神の救いを得るために自分の力では何もできません。ローマ人への手紙6章23節に書かれているように、無償のプレゼントなのです。

「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」

しかし、プレゼントは受け取られるまでは、相手の手の中に残っています。我々は罪から救われるために、心を開き

救い主からのすばらしいプレゼントを受け取らなければなりません。これは、例えば単純な祈りによって受け取ることができます。「イエスさま。私を救ってください。私は道に迷った罪人です。今、私はあなたを私の主、救い主と認めます。どうか赦してください。」

ちょうど、少女が恥ずかしさのあまり泣いたように、私たちは罪を犯して、泥沼の中にはまっています。

我々の何人かは、不道德、うそ、憎むこと、盗み、その他の泥沼に陥っています。私たちには、選択肢があります。我々は前だけ見ることにして、我々自身の罪の泥沼を無いことにし、あるいは、他の人も同じように罪があるのだから、自分だけが悪いのではないと開き直ることが出来ます。あるいは、我々は自分自身の泥沼を見つめ、我々の罪深さに落胆し、孤独と感ずること

も出来ます。神は私たちに、私たちのために備えられたノゾミ（主イエス・キリスト）を受け入れて欲しいと思っています。主イエス・キリストは私たちを罪に対する罰から守り、救いたいと願っておられ、また救う準備も整っています。我々の「ノゾミ」（主イエス・キリスト）は、私たちの罪を水で覆いません。彼は、我々の罪を自身の血で覆います。これは、レビ記17章11節とヨハネの黙示録1章5節とに書かれています。

「なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。」

黙示録1章5節

「また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王た

ちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち [ました。]

神がエジプトからユダヤの人々を導き出されたとき、神は彼らに子羊の血を、家の門柱と鴨居に塗るように教え、塗った家の初子は死から救われると教えました。血が門柱に塗られているなら、神はその家の上を過ぎこし、その家の初子を殺さないと言われたと出エジプト記12章13節に書かれています。

「あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。」

神は、門柱と鴨居に塗られた血を見て、その家の上を通過して初子を殺さないと言いました。これが、「過ぎ越しの祭り」の語源です。

毎年、ユダヤ人は過ぎ越しの祭りを祝います。しかし、私は今まで血の重要性を理解していませんでした。

過ぎ越しの祭りをヘブライ語で「Pessach」といいます。現在の一般的なヘブライ語では、pessachはスキップするとか、飛び越えるという意味で使われます。たとえば、多くの人の名前の書かれた名簿があり、あなたがリストに載っている1人を飛ばしたい時に「pessach」という言葉を使います。

私たちはみな罪を犯したので、神の審判では、全員地獄に投げ込まれる側にリストアップされていました。しかし、神は、我々を神が甘んじて受け入

れることができるように、主イエス・キリストの血を流しました。我々が主からの救いというプレゼントを受け入れるなら、神はリストにある我々の名前の上に主イエス・キリストの血を見て、我々を飛ばします。

後に、ノゾミは、もし彼が神の救いを受け入れるならば、ちょうど彼が同級生をかばったのと同じように、主イエス・キリストが私たちを罪から守り、救うということを理解しました。ノゾミはイエス・キリストを彼の主であり、救い主であると認め、教会で前述のようなエピソードを語りました。

私は日本に旅行に行くといつでも、いかに日本が時間厳守の国であるか思い知らされます。電車は正確に時間通りに走り、アポイントは正確に時間どおりに開始されるなどです。しばしば、私は日本の人々が「時間は限られてい

ます」という言い回しを使うのを聞きました。これは「急いでください」ということを遠回しに言っています。

主イエス・キリストを、あなたの救い主として受け入れることのできる時間は限られています！将来、別の機会があるという保証はありません。あなたはこの決心を延期するべきではありません。神があなたを呼ぶときこそ、あなたが神に応答する時です。神があなたをあなたの罪から救うために呼びかけてくださる時間がいかに限られたものであるか、第2コリント人への手紙6章2節で説明されています。

「神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。」

主イエス・キリストは復活して、神（真の神）として天国にいます。そし

て、あなたが救われるために、彼のもとに訪れるのを待っています。あなたは彼にあなたのノゾミになってもらいあなたの罪の罰からあなたを助けてもらいますか？まさに今、神はあなたを、あなたの罪のため地獄に投げ込まれるという罰から救いたいと願っています。今彼をあなたの主と救い主と認めませんか？



祈るため、または主イエス・キリストを通しての神の子どもとなることについてより詳しく知りたい方は、著者トム・カントールに連絡をとってください。

TomCantor@FriendshipwithGod.org
1-800-247-3051

ノゾミの話は、奈良（日本）のデイビッド・フェルベイより聞きました。

ガラテヤ3章13節

「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、『木にかけられる者はすべてののろわれたものである。』と書いてあるからです。」

7)彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほぶり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

8)しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。

9)彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行なわず、その口に欺きはなかったが。

10)しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。

11)彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。

12)それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、そむいた人たちのためにとりなしをする。



03-18-14 vs 01

7MB015